

戦争の記憶を語り継ぐ

問福祉課生活福祉係 ☎73-9123

令和7年は、第二次世界大戦の終結から節目の80年の年です。
先の大戦のご遺族でもあり、小郡市遺族連合会会長である山村司さんにお話を伺いました。

▶昭和20年3月27日、米軍のB29爆撃機、黒煙を上げる大刀洗飛行場（筑前町立大刀洗平和記念館提供）



Interview

小郡市遺族連合会会長
山村 司さん

昭和16年12月27日生まれ。
青年部、校区遺族会の活動を経て、令和3年度から会長に就任。
先の大戦の記憶を次世代に継承していくための活動に取り組んでいる。



あの目見た光景

とても印象に残っているのは、米軍の艦載機が小郡に飛来したときのことです。

昭和20年3月27日。大刀洗大空襲の日です。私の家は農家を営んでいたのですが、当時4歳だった私も家族や近所の人たちと麦畑で麦踏みの手伝いをしていました。当時の大刀洗には、「東洋一」といわれる大きな飛行場があったのですが、その大刀洗飛行場から物資を輸送する蒸気機関車を追って米軍の飛行機が飛んできました。

その飛行機は、汽車に向かって機関銃を撃ちました。まだ幼かった私は、機関銃から発せられる火花を、残酷なものとは思わず、むしろきれいだと感じて見れていました。その時の光景は、今でも鮮明に覚えています。

見とれていて逃げようとしなかった私を、近所のおじさんが近くの溝に放り込みました。水が冷たく寒かったこと、投げ込まれた衝撃で痛かったことを鮮明に覚えています。でも、そのおかげで私は今も生きているのだと思います。

その年の8月に終戦を迎えましたが、父は6月に沖繩で戦死し、帰ってきませんでした。だから私は父の顔をほとんど覚えていません。

平和な未来を残すために

遺族会の役員、会員も高齢化しており、当時を経験している人は年々少なくなっています。国は、戦時中や戦後の経験を次代に残すため「平和の語り部事業」を推進しています。小郡市の遺族会でも、当時のことを知る人の話を冊子にして残すなどの取組を考えています。

今もなお、世界では戦争が絶えませんが、戦争は絶対にあってはならないものです。戦後80年を機に、二度と戦争を起こさないように、そして若い人たちに凄惨な経験をさせないように、平和な世の中を残すために活動をしていきたいと思っています。

令和7年度小郡市戦没者追悼式

日時

5月31日（土）
10時半

会場

小郡市文化会館



ご遺族だけでなく、一般の人でも参加できます。予約不要、入場料もありませんので、気軽にご来場ください。